

## 香川県立中央病院 歯科医師臨床研修の内容及び到達目標

### I はじめに

卒前に習得した事項を基本として口腔疾患の診査、診断、および治療を的確に行うために必要な基本的な知識、技術、判断力、EBMに基づいた問題解決能力を研修する。さらに入院、手術症例を含めた口腔外科疾患への対応、他科入院患者等の全身管理下での歯科診療など医科と歯科の連携体制を理解できるようにする。さらに、他の医療・介護・リハビリスタッフと連携して取り組む要介護者への訪問歯科診療、介護保険サービスおよび歯科疾患予防を目的とした地域歯科保健、公衆衛生的手法を研修する。

### II 研修の評価、修了認定について

研修歯科医は、「IV 到達目標評価表」を用いて自己評価を行い、研修手帳記載の「研修記録」には目標達成の基準となる日々の経験症例等の記録を記入する。指導歯科医からの評価も記入された「IV 到達目標評価表」、「研修記録」及び「レポート」を年1回開催される歯科臨床研修管理委員会に提出し、修了認定を行う。具体的な修了判定の評価基準については、「III 到達目標/研修内容/修了判定の基準」に明記する。

### III 到達目標/研修内容/修了判定の基準

#### 到達目標A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

#### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

#### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

#### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

#### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医から B 以上の評価を受ける

## **到達目標B. 資質・能力**

### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受ける

### 2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受ける

### 3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医から B以上の評価を受ける

#### 4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医から B以上の評価を受ける

#### 5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医から B以上の評価を受ける

#### 6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医から B以上の評価を受ける

#### 7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受ける

## 8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受ける

## 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む。)を把握する。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受ける

## 到達目標C. 基本的診療業務

【基本的診療能力等】

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。

- ②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、聴取を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

## (2) 基本的臨床技能等

- ①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
  - a 歯の硬組織 疾患 b 歯髄疾患 c. 歯周病 d. 口腔外科疾患
  - e 歯質と歯の欠損 f 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
- ③基本的な応急処置を実践する。
- ④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
- ⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、診査を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

### (3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

### (4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、作成を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

## 【歯科医療に関連する連携と制度の理解】

### (1) 歯科専門職の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

## (2) 多職種連携、地域医療

①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。

②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。

③訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。

④がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。

⑤歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

必要な症例数；全項目を含む20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、合計20例以上経験していることが必要。

## (3) 地域保健

①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

必要なレポート数；各項目につき1例

研修歯科医の指導体制；各研修歯科医を担当する上級歯科医・指導歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、レポートを提出することが必要。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

③介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

必要なレポート数；各項目につき1例

研修歯科医の指導体制；各研修歯科医を担当する上級歯科医・指導歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、「IV 到達目標評価表」にて指導歯科医からB以上の評価を受け、レポートを提出することが必要。



#### IV 到達目標評価表

到達目標の達成状況を評価するため、研修歯科医は指導歯科医から別途指示のあった時に以下の表にて自己評価を行い、指導歯科医は研修の全期間を通じて、研修歯科医の評価を行う。

なお、評価A～Dは以下の基準とする。

評価A・・・歯科医師臨床研修時で期待されるレベルを大きく上回る

評価B・・・歯科医師臨床研修時で期待されるレベル

評価C・・・歯科医師臨床研修時で期待されるレベルを下回る

評価D・・・歯科医師臨床研修時で期待されるレベルを大きく下回る

##### A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

項 目	自己評価	指導歯科医評価
<u>1. 社会的使命と公衆衛生への寄与</u> 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	A B C D	A B C D
<u>2. 利他的な態度</u> 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	A B C D	A B C D
<u>3. 人間性の尊重</u> 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	A B C D	A B C D
<u>4. 自らを高める姿勢</u> 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	A B C D	A B C D

##### B. 資質・能力

項 目	自己評価	指導歯科医評価
<u>1. 医学・医療における倫理性</u> 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。	A B C D	A B C D
<u>2. 歯科医療の質と安全の管理</u> 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。	A B C D	A B C D

<p><u>3. 医学知識と問題対応能力</u></p> <p>最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>4. 診療技能と患者ケア</u></p> <p>臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>5. コミュニケーション能力</u></p> <p>患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>6. チーム医療の実践</u></p> <p>医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>7. 社会における歯科医療の実践</u></p> <p>医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>8. 科学的探究</u></p> <p>医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。</p>	A B C D	A B C D
<p><u>9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</u></p> <p>医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。</p>	A B C D	A B C D

### C. 基本的診療業務

項 目		自己評価	指導歯科医 評価	経験 数	必要 経験数
基本的 診察・ 検査・ 診断・ 診療計画	①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	A B C D	A B C D		20
	②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	A B C D	A B C D		
	③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	A B C D	A B C D		
	④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	A B C D	A B C D		
	⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	A B C D	A B C D		
	⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	A B C D	A B C D		
基本的 臨床技能等	①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	A B C D	A B C D		20
	②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。				
	a 歯の硬組織 疾患	A B C D	A B C D		
	b 歯髄疾患	A B C D	A B C D		
	c. 歯周病	A B C D	A B C D		
	d. 口腔外科疾患	A B C D	A B C D		
	e 歯質と歯の欠損	A B C D	A B C D		
	f 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	A B C D	A B C D		
	③基本的な応急処置を実践する。	A B C D	A B C D		
	④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	A B C D	A B C D		
⑤診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	A B C D	A B C D			

	⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	A B C D	A B C D		
患者管理	①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	A B C D	A B C D		20
	②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	A B C D	A B C D		
	③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	A B C D	A B C D		
	④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	A B C D	A B C D		
患者の状態に応じた歯科医療の提供	①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	A B C D	A B C D		20
	②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	A B C D	A B C D		
	③在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	A B C D	A B C D		
歯科専門職間の連携	①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	A B C D	A B C D		20
	②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	A B C D	A B C D		
	③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	A B C D	A B C D		
多職種連携、地域医療	① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	A B C D	A B C D		20
	② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	A B C D	A B C D		
	③ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	A B C D	A B C D		

	④ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	A B C D	A B C D		
	⑤ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	A B C D	A B C D		
地域保健	① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	A B C D	A B C D	※	1
	② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	A B C D	A B C D	※	1
歯科医療提供に関連する制度の理解	① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	A B C D	A B C D	※	1
	② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	A B C D	A B C D	※	1
	③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	A B C D	A B C D	※	1

※・・・レポート提出項目